

部局名	総務企画部	所属名	総合企画課 国際推進室	所属長名	堀谷 修	電 話	483-1151 内線2337
-----	-------	-----	-------------	------	------	-----	-----------------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	4077		事務事業名称	国際推進事業					短縮コード	経常	4077	臨時	4098
予算区分	会計	01	一般会計	款	02	総務費	項	01	総務管理費	目	07	企画費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他			根拠法令等		八千代市国際交流協会補助金交付要綱							
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
・平成に入ってから、国や県で国際推進・理解事業を推進していこうという方針が示された。 ・本市では、平成元年に市制25周年記念として国際姉妹都市提携事業を行うことを決め、候補市の選定を開始。平成4年8月にアメリカ合衆国テキサス州タイラー市と姉妹都市を提携。以後、親善訪問団の派遣・受け入れ事業を行ってきた。 ・平成18年1月には、市内の国際関係4団体が集まり、八千代市国際交流協会を設立。同会には、タイラー市との交流を行う国際姉妹都市部会、語学ボランティア部会、在住外国人への日本語指導を行う日本語指導ボランティア部会、国際交流に興味のある人が集まった国際交流促進部会があり、独自に活動している。 ・市は国際化・国際交流を推進のため、国際交流関係書簡の翻訳、親と子どものための学校ガイダンスの開催、バンコク都からの視察団受入等を実施。また、八千代市国際交流協会への助成及びサバイバル日本語講座を共催している。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総合計画の施策体系	6本の柱（章）	02	第2章教育文化都市をめざして						
・国際化への関心、対応への要望は年々高くなっている。 ・市内在住の外国人の数は減少傾向である。 ・各交流事業後に、個人的に交流をする人が多くなっている。					大項目（節）	07	第7節多文化共生						
					中 項 目	01	1. 多文化共生						
					小 項 目	01	(1)コミュニケーション支援						
						02	(2)多文化共生の地域づくり						
					細 項 目	02	②日本語の学習支援の充実						
02	②多文化理解事業の推進												
				実施計画の計画事業									
計画事業の位置付けの有無				☐	計画事業期間		～			計画事業費		千円	

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	在住外国人，市民（住民基本台帳）							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成23年度に実際に行ったこと： 日本語指導ボランティアが実施したサバイバル日本語講座の共催、八千代市国際交流協会への支援、親と子の学校ガイダンス、友好都市からの視察団の受入、JICAへの協力。							
	※平成24年度に計画していること： タイラー市親善訪問のための連絡調整、八千代市国際交流協会への支援、日本語指導ボランティアが実施するサバイバル日本語講座の共催、親と子どものための学校ガイダンス、JICAへの協力。							
意図 （何を狙っているのか）	外国人との交流により、異文化に対する理解を深め、友好的な考え方を育て、なおかつ多くの人に広めていく。							
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外							
区 分				単位	22年度	23年度		24年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	在住外国人数	人	3,994	3,800	3,800	3,650	
	指標2	市民（住民基本台帳）	人	193,274	196,400	192,884	199,500	
	指標3							
活動指標	指標1	日本語ボランティア教室の開催回数	回	393	400	337	350	
	指標2	タイラー市親善訪問団派遣人数	人	0	0	0	50	
	指標3							
成果指標	指標1	日本語ボランティア教室を受講した人数	人	412	400	824	800	
	指標2	姉妹都市交流事業に参加した人数	人	32	40	5	60	
	指標3							
上位成果指標	指標1							
	指標2							
	指標3							

コード	4077	事務事業名称	国際推進事業			所属名	総合企画課 国際推進室
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☒ 改革・改善して継続		市内在住の外国人を国籍別に見ると、ブラジルが減少，中国が増加傾向にある。今後も多文化共生社会の実現に向け，様々な情報の集収に努め，八千代市国際交流協会については，同会が自主的に事業を企画・運営できるよう，市としてサポートしていく。また，関連部署と連携して情報を共有し，事業を進める。			
		☒ 手法プロセスの改革・改善					
		☐ 事業規模の拡大・縮小					
		☐ 統合・役割見直し					
	☐ その他						
☐ 廃止・休止							
☐ 事業完了							
☐ 現状のまま継続							
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			多文化共生社会の実現に向け，更なる多言語での翻訳・通訳員の確保や，活動スペースなどが必要となる。
				削 減	不 変	増 加	
		成 果	向 上	☐	☐	☒	
			不 変	☐	☐	☐	
低 下	☐		☐	☐			

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など	
タイラー市との交流の幅をもっと広げていった方がよいのではないか、という意見がある。	

所属長コメント	国際姉妹都市や友好都市との国際交流事業並びに在住外国人への日本語教室による支援や交流イベントを実施するなど、多文化共生プラン推進に向けて八千代市国際交流協会などと協力し連携を図りながら実施する。また，庁内には，英語以外の外国語を話せる職員がおらず，来庁した在住外国人への対応が難しいという窓口担当者からの意見がある。平成２２年に開所した多文化交流センターを活用し，関連部署と連携し情報の共有化を推進する。	
評価調整委員会評価	☒ 改革改善して継続	多文化共生プランの推進に向け，多文化交流センターの有効活用等，関係部署・関係団体と協力・連携し，事業を進めること。
	☒ 手法プロセスの改革・改善	
	☐ 事業規模の拡大・縮小	
	☐ 統合・役割見直し	
☐ その他		
☐ 廃止・休止		
☐ 事業完了		
☐ 現状のまま継続		